

吹田の郷

発行/NPO法人すいた市民環境会議 事務局/〒564-0062大阪府吹田市垂水町3丁目8-28, 705 TEL/090-8375-0647 FAX/06-6386-9491 中村小夜子
会長/小田忠文 ホームページ <http://www3.big.or.jp/%7Esskk/sskk.htm> 設立/1997年3月15日 編集長/古谷啓伸
年会費/正会員(個人・団体)1,000円、正会員(法人)10,000円、購読会員1,000円、賛助会員10,000円 郵便払込口座番号/00980-3=28845

今後の予定

七草観察会 7月11日(日) …… 8頁

吹田市観光マップ「あलック吹田」散策会

すいた再発見の楽しいウォーキング スポット
盛り沢山の

正雀・安威川コース

9月11(土) 9:30~正午頃 小雨決行

JR岸辺駅出口に集合 解散は浜屋敷

今回のコースは番外編です。吉志部に移り住んだの吉志一族に縁のある天津神社、安威川堤沿いに味苦水路跡の緑道、吹田歴史文化まちづくりセンター(愛称・浜屋敷)などを訪ねます。

参加費 会員400円

非会員500円

参加申込先 大越 電話番号は10頁の「会員数と入金」をご覧ください

会報誌35号の原稿締切り 投書・投稿歓迎 7月20日(火) …… 10頁

会報誌35号の宅配 9月 6日頃

理事会

毎月第3土曜日に市民会館で1時30分から行なっています。どなたもお気軽に傍聴できます。その場合、日時の変更の場合がありますのでお問い合わせ下さい。



毎年6月メイ
シアターで開か
れる環境教育フ
ェアをご存知だ

ろうか。1996年から毎年開かれ今年9
回目。企業や市民グループ、行政などで
作る実行委員会には16団体が参加し、す
いた市民環境会議も加わっている。▲会
場ところ狭しと展示される小中学生の環
境に関する絵画展は素晴らしい。じっく
り見ていると時間が足りないくらいだ。
▲私は環境に関する事例発表を楽しみに
している。小学校低学年から環境に関心

をもち、行動していることが頼もしく思
えるからだ。▲中ホールでは中学生によ
るブラスバンド演奏や、演劇がある。今
年の演劇は中学生自身のオリジナルの台
本で、内容はしっかりとしたものだ。他
にも多くの出し物がある。最後にはリサ
イクル自転車などの抽選会がある。▲環
境教育フェアをまだ見たことがないとい
う会員がいらしたら来年、ぜひ見に来ら
れることをお勧めする。次の年からは環
境教育フェアに参加したくなるものであ
る。環境問題は参加してナンボ、阿波踊
りに似ている。

第5回通常総会報告

事務局長・中村小夜子

5月15日午後1時より2時まで総会を行いました。

出席者28名、委任状提出者72名。合計100名は正会員148人の3分の1を超えて、総会が
成立しました。

第1号議案から第5号議案まで議案はすべて全員一致で可決されました。

ついで、監事 菅原節子氏の退任が報告されました。

総会終了後、講師・濱恵介さん〔大阪ガ
ス(株)エネルギー・文化研究所〕による
講演「住まいの楽しい省エネルギー」があ
り、続いて濱さんを交えて懇親会を行いま
した。

濱さんは地球温暖化に挑む建築家。奈良
で入手した中古住宅をエコハウスに改築し
省エネを実践されています。住まいの断熱、
太陽光発電、太陽熱給湯、薪ストーブなど
の工夫により、家庭からの二酸化炭素の排
出量を奈良市の平均排出量の27%にされま
した。

「省エネの成果が数字で表されると、達
成感が沸いてくる。エネルギーを上手に使

い、自然の恵みに感謝の気持ちを持って省
エネを実践すると、それは我慢ではなく、
ごく当たり前のことになり、生活の楽しみ
の一部にさえなり得る。『持続可能な社会』
では未来の世代が生きる基盤を守れる範囲
で、今を楽しむことが許される。地球レベ
ルの大きな問題も、我々一人一人の生活、
消費活動の積み重ねの結果であり、まずは
自分で出来ることをきちんとやって、それ
を周囲に広めることが大切である。住宅は
生活に最も身近な存在で、自らの判断で楽
しみながら環境問題の軽減に貢献できる場
と言えるだろう。」(講演会のレジュメか
ら) 生活環境委員長・喜田久美子

会員紹介シリーズ その⑥

山手町 古屋 美千代さん

* * * * *

結婚を機に吹田市民となり、はや18年が過ぎました。今は山手町に住んでいますが、最初の11年間は山田西で暮らしていました。

すいた市民環境会議の会員になったのは4～5年前だったと思います。行事等にはなかなか参加できず、もっぱら機関誌「吹田の郷」を読むばかりの会員ですが「吹田の郷」を通して全く知らなかった吹田の自然や歴史などを知ることができた事を嬉しく思っています。吹田市内（長野東）に野生のキツネが生息しているなんて思ってもみませんでした。本当にびっくりです。

山田西の社宅で暮らしていた頃は、日々の暮らしと二人の子供を育てることに手一杯で、いつも身近に存在していた季節毎の美しい風景や花々を楽しむゆとりはありませんでした。

唯一印象に残っているのは、社宅のすぐ北側に4本ぐらいあった大きなクヌギの木です。春が来るといつの間にか小さな葉っぱの赤ちゃんが芽吹き、朝日にキラキラと光っていました。そして、初夏にかけて、みるみる葉っぱは大きく色濃くなって行き、あつという間にお隣のマンションが見えなくなったものです。また台風接近時は「ビュー、ビュー」と、ものすごいなり声をあげながらしなう様子を親子で釘付けになりました。子供らは「木が怒ってるねー、倒れてきたら怖いねえー。」と不安がりつつも、怖い物見たさで窓の外を凝視していました。夏が来ると蟬の鳴き声が目覚まし代わりに。大木が数本あるのですから、蟬の数も半端じゃありませんでした。秋には次から次へと落ちてくるドングリがおままごとのメニュー。ドングリご飯にドングリの帽子（殻斗～かくと～）のサラダといった具合です。冬が近づいて来ると、社宅のみんなで半日かけて落ち葉拾いをしたものです。

数年前にこれらの木を見に行っただのですが、無くなっていました。隣接するマンションへの日差しを遮っていたし、落ち葉の掃除もかなり大変だったので、切られてしまったのでしょうか？

こんなふうに山田西時代はクヌギの木を通

して季節を感じる事がやっとでしたが、今は子供たちもおおかた手を離れ、仕事もフルタイムではないので、時間を作っては“市内のお気に入りスポット”を探しに出掛けています。

この春には、初めて“お花見サイクリング”に出掛けました。山手町の自宅を出て、まずは関大の桜並木の下を快適に走行。次に千里山の〇〇さん宅の大きな一本桜を愛でて、南千里へと上り坂をこぎ進みました。ジャスコを過ぎてしばらく行くと、右手に桜並木と菜の花が見事なコントラストを見せてくれました。ここで写真を一枚パチリ！さらにしばらく行くと、今度は左手に再び桜並木。次は千里南公園。実はこの公園をちゃんと見て回るのは初めてでした。桜の木の多さにびっくり！まさに「桜の園」・・・ですね。おにぎりを頬張りながら、ただただ「ポーッ」と桜を眺め、日常を離れ心穏ひとときを過ごしました。そして青山台の「桜通り」へ。まるで桜のトンネル。「お見事」の一言です。車から下りて“ケータイ”で桜を撮っている人が多かったです。その後は北千里の桜並木を堪能し、ピアノ池の東屋で残りのおにぎりを片づけて帰路につきました。来年もぜひ同じコースを回ろうと思っています。

紅葉で大好きなのは「高野台グランドそばのフウの木」「そのグランドから佐竹台6丁目に抜ける歩道のモミジ」「佐竹台公園のメタセコイヤ」「亥の子谷から南千里へ続く道路沿いのイチヨウ並木」です。イチヨウ並木は吹田に住み始めた当初から知っていましたが、他の木々については知りませんでした。3年前にそれらの紅葉が素晴らしいことを友達から聞き、それ以降は毎年仕事帰りに自転車で見回りながらデジカメに収めています。高野台グランドは山田西の社宅からは目と鼻の先だったのに、そのフウの木について当時は全く知りませんでした。

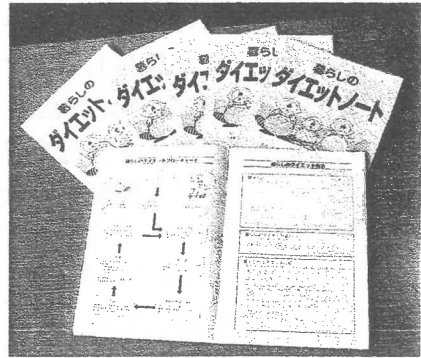
今年の秋は、会報（第32号）で知った「北千里ケヤキ通り」や「三色彩道」それに「千里北公園」を探訪してみようと今から楽しみにしています。

私もその一人ですが、吹田の貴重な自然や歴史をより多くの市民に伝えることで“我が町吹田”への愛着も深まっていくと思います。「吹田の郷」を今後も楽しみにしています。

文； 古屋 美千代（こや みちよ）

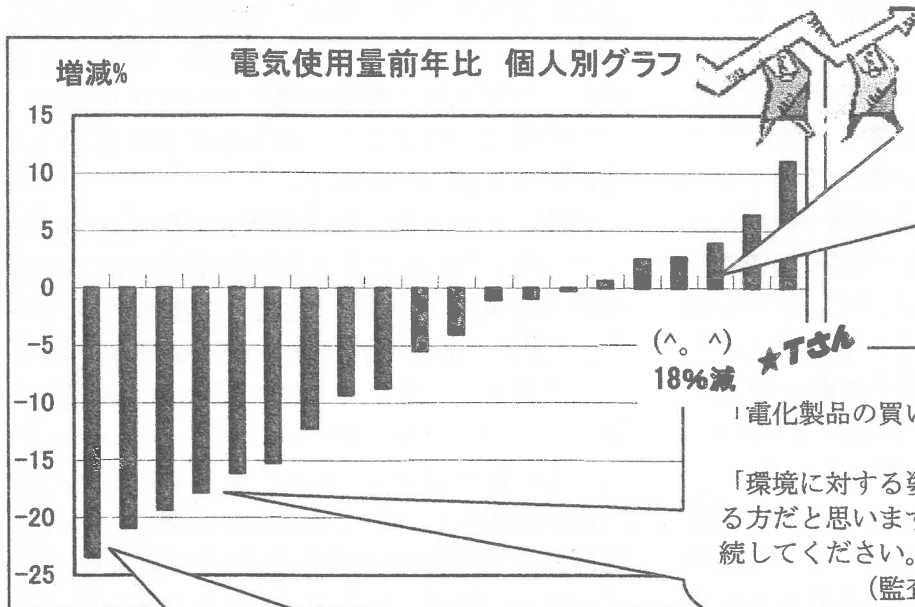
★家庭の環境マネジメント（環境家計簿）第2期の取り組み結果ができました！

「家庭の環境マネジメント」活動は2年間の取り組みです。
 第1期取り組みは2001年11月から1年間でした。
 このあと引き続いて第2期に入り、
 2002年11月から2003年10月まで取り組みました。
 この第2期の取り組み結果ができましたので概要をご紹介します。
 （データの分析は、生活環境委員会で行いました）



■電気使用量を第1期より7%減らすことができました。

- ・電気の取り組み参加者数は23名。
- ・1年間のデータがそろっていて前年比較できたのが20名。
- ・使用量は前年度より7%減でした。
- ・その原因の一つとして冷夏の影響が考えられます。全体として8月は前年度より32%減となっています。クーラーの使用が減ったのでしょうか。



「受験生がいたとか、来客が多かったとか理由があると思うのですが・・・」
 （自主監査より）
 「前年比では増加していますが、世間一般に比べると53%の使用量。省エネ生活が家庭に根ざしています。ライフサイクル中、今がピークでしょう。」
 *（監査人コメントより）

「電化製品の買い替えで減りました。」
 （自主監査より）
 「環境に対する姿勢をしっかりと持っている方だと思います。あまり無理せずに継続してください。」
 （監査人コメントより）

「子どもたち2人が寮生活を始めるなど、前年より家族数が減りました。」（自主監査より）
 「家族数が減っただけでなく、家族との話し合いがきちんとされていることも、成果を挙げた要因と思われれます。」（監査人コメントより）

*環境マネジメントでは、1年間記録したら自分自身で検討し（自主監査）⇒グループなどで課題について話し合い（第三者監査）⇒監査人の意見を求めます（第3者監査）。

電気使用量によるCO2排出量3年比較

年度	CO2 排出量	対前年削減量
01	6347.9kg	
02	6343.3kg	4.6kg
03	5932.3kg	411.0kg

「電気使用量のお知らせ」で前年同月使用量がわかります。3年間のデータがある参加者は12名。
 3年前（取り組み前）と比較すると415.6kgのCO2を削減したことがわかりました。

■ガス使用量は第1期より4%増えてしまいました。

- ・ガスの取り組み参加者数は22名。
- ・1年間のデータがそろって前年比較できたのが19名、使用量は前年度より4%増でした。
- ・使用量を個人別にみると前年より44%減から、28.9%増までさまざま。
- ・個人別に増加理由をみると、家族や来客が増えた、娘さんが出産のため帰ってきたなど生活の変化によるものが何例もありました。しかし、冷夏だった8月の1家庭平均が前年より15%増という結果が出ており、使用量を引き上げています。

【そのほかの項目については、下記をごらんください】

★2年間の取り組みのまとめ

項目	第1期	第2期
取り組み参加者	25人	27人
記録提出	21人	24人
第3者監査実施	18人	24人
認識度チェック(取り組み前後比較)	上昇	上昇
電気使用量(1家庭あたり 前年度比)	0.1%減	7%減
ガス使用量(1家庭あたり 前年度比)	0.1%減	4%増
水道使用量(1家庭あたり 前年度比)	現状把握	6%減
ごみ排出量(1家庭あたり 前年度比)	現状把握	14%減
ガソリン	-	現状把握

★できたこと・できなかったこと

【参加者について】

- ・取り組み参加者が全会員の10%に留まりました。
- ・組みを契機として、新会員になってくれた方もおり、人脈が広がりました。
- ・活動のほとんどは個人の生活の中にあり地味なものですが、自

分自身の取り組み実感とデータを持つことができました。

- ・イベントへの参加や参加者同士での話し合いを通して、環境問題への考えを深めることができましたと思います。

【取り組み項目について】

- ・電気 前年比7%減を達成できました。
 - ・ガス 4%増となり減量に至りませんでした。
 - ・節水 6%減を達成しました。
- 領収書に前年同月使用量の記載がないので、この点について市長とお話しました。

【今年度から前年同月量が記載されています！】

- ・ごみ減量 「生ごみ処理機」を積極的に活用してもらうことにより、14%減を達成しました。
しかし、処理機の活用についてのさまざまな問題点も判明しました。
- ・ガソリン 参加者が少なく現状把握に留まりました。

暮らしのダイエット宣言

緑や野生の動植物の豊かな地球をとりもどすため、そして子孫に残すため、傍観者にならないでおこうと思う。

★Oさん

暮らしのダイエット宣言

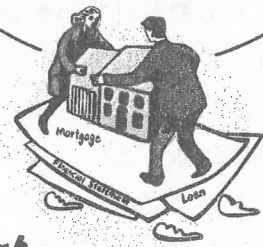
名もなく貧しく美しく、愚直な生活さまが表れる家計簿になればよいと思います。

★Fさん

★Tさん

暮らしのダイエット宣言

自分と自分の家族生活が、地球環境への負荷を必要以上にかけているのではないかと、このダイエットノートで感じている。しかし、負荷軽減への想いと日常生活での実践はいつも反省が多い。とりわけ、父としての日常生活が、家族の手本になっていないことを強く反省するばかりです。少しでも想いが具体的な行動に移せるように次年度は家族の協力を得たいと考えています。



★Oさん

●感想=夫が協力的になって目標が達成できたと思う。

★Iさん

●感想=今年は冷夏でもあったため夏のエアコンの使用量が減ったため大きな減になったようです。なかなか家族の理解が得られず(心がけてはいるようですが)入浴時間や、消灯時間、テレビを見る時間は思うようにいきませんでした。ただ「これは捨てていいの?」とか「どこに分別するの?」などの言葉が出てきたことはうれしいことでした。
より多くの人に取り組みしてほしいと思います。

2年間ご協力ありがとうございました。
7月より、昨年も実施された「おおさかエコアクション」(半年の取り組み=市と協働)が始まります。
どうぞご参加ください。 問い合わせ先=委員会 喜田 T&F 6330-0305 (夜間のみ)

糸田橋の石柱からビールの試飲まで 最後は飲み放題で弾んだ歓談

高野台 木下嘉清

千里ニュータウンに移り住んでから40年以上経つが、吹田の街は良く知らなかった。市民環境会議に入会してから、この散策シリーズに参加を心がけているが、今回ようやく3回目の参加が出来た。

5月22日、豊津駅の集合場所へ着くと、既に地下道の階段まで参加者で溢れていた。久しぶりの好天に恵まれたせいか、参加者39名で、過去最高の人数だそうだ。2グループに分れて出発した。

「糸田橋の石柱」は駅を出てすぐだ。かつて水害対策で埋没した糸田橋の石柱が後に発見され記念に保存されたと掲示されている。糸田川に沿って歩いて行くと、右手高台に高い建物が見えてくる。建物の正面には、「大阪ハリストス正教会」と門に看板が掛かっている。教会は残念ながら工事用のネットで覆われていたが建物の凡そは判る。定刻出発のグループが合流して、教会の中へ入ると、牧師さんが待っておられた。元来、この教会は大阪天満橋にあったが、爆撃で焼失し、昭和37年に吹田のこの地に再建された。ハリストスとはギリシャ語（ΧΡΙΣΤΟΣ）でキリストと言う意味で、X'masのXはギリシャ語から来たのだった。ロシアで制作された聖像イコンも拝見出来た。

「片山公園」では、まずは平和のバラ園で満開のバラを鑑賞した。吹田市「平和の塔」実行委員会が被爆50周年行事に取り組んで、広島から届いた新種のバラ「メイ・ピース」を初めて知った。バラ園は、こじんまりとしているが、花の種類は多く、やや雑然とした印象だった。ここで、おやつ時間となり、スタッフの古谷さん手作りのオリジナル菓子を楽しんだ。タイムカプセルを収めた“平和と健康の鐘”のモニュメントを通過して、樹木の多い坂道を登り、「ささの原っぱ」を過ぎて公園の反対側“和風庭園”へ移動する。“水琴窟”を試したりして、市民会館への道を下った。片山公園は全体としてまとまりの不足を感じた。

市民会館6階の「平和祈念資料室」は初めての訪問だ。最近はどうも利用者が少ないようだ。戦争映画（勿論反戦と言う意味だ）の上映会を嬉々と紹介する若い女性担当者の気持ちが良く伝わった。

「玉林寺」は曹洞宗の禅寺だが、聖徳太子ゆかりの帝釈天像は、今はもう拝顔の機会はない様だ。境内に吹田市指定のクスノキ、イチヨウの大木があった。

「泉殿宮」の起源“泉殿霊泉”は、かつてアサヒビールの立地を決定したというが、今やその水質と豊富だった水量は面影もない。千里ニュータウンの開発で涸れたともいうが、それ以前に既に涸れていたと言う。宮脇宮司さんは神戸・生田神社で13年も修行され、大震災の前に戻ったそうだ。この神社が大塩平八郎の乱に関わりがあったとは初耳だった。宮司はパソコン特製の縁起書きを配るなど、なかなか熱心だ。

予約時刻通り「アサヒビール吹田工場」の正門からゲストハウスに着いた。この工場自慢の“ごみゼロ”の展示もそこそこに見学をすませ、いよいよ待望のビールの試飲にこぎつけた。5種類の世界著名のビールがのみ放題だ。おつまみは不足気味だったが、ビールのお陰で歓談も弾み、“あろく”パーティは大成功だった。

今回のコースは、距離は短いが、充実した内容だった。殊にビールの飲み放題が参加者の交流を深めたという意味で、このプログラムを引き立てたと思う。



ビアホールは他の見学者もいて満席

見学と交流会 日本のへそのまち・西脇市

- ・吹田歴史文化まちづくりセンターや旧西尾邸の活用、千里ニュータウンや千里山のまちづくりや地域活性化などの参考に、まちなみ委員会の研修会として西脇市を4月に訪ねました。
- ・地域全体をエコミュージアムとする取り組みなど貴重なお話を西脇市の幹部の方やNPOの方より伺うことができ、有意義な楽しい研修会でした。

西脇市は中国自動車道・滝野社インターから北約10分、緑の山々に囲まれ、加古川と杉原川が合流する地にあります。

200 有余年の歴史を誇る播州織と伝統技法による播州毛鉤(けぼり)を基幹産業として栄えたまちです。

東経135度と北緯35度が交差する日本のへそ(中心)のまちとして、ユニークなまちづくりを進めています。人口約38,000人、面積97km²。訪問したスポットを紹介します。訪れて見ませんか

・国登録有形文化財・旧来住(きし)家住宅

大正10年竣工、当時の最高級用材と技術で創られた高級民家。ボランティアが案内してくれます。(次号で詳しく紹介します)

・NPO法人 北はりま田園空間博物館 総合案内所 (国道175・道の駅 北はりまエコミュージアム)

北はりま田園空間博物館とは、西脇市と4町からなる北はりま地域の豊かな自然や歴史文化、伝統産業のほか住民の生活までも含めた有形・無形の地域資源を、そのまま博物館のサテライトとして展示する地域まるごと博物館です。

現在、190余のサテライトが登録されています。また、この博物館は地域づくり活動の展開を図る組織でもあり、NPO法人として運営しています。

総合案内所は情報発信基地であり、特産品の販売、レストランもあります。

・日本へそ公園

日本のへそを郷土の誇りに、芸術と科学の融合をテーマに整備されました。国内最大級直径80cmの反射望遠鏡のある経緯度地球科学館「テラ・ドーム」、西脇出身の画家・横尾忠則の作品を常設展示する岡之山美術館があります。

また、大正12年に建てられた経緯度交差点標識と平成に人口衛星で確認された地点に建つ平成のへそモニュメントがあり、美術館前にJR日本へそ公園駅があります。

・西林寺(さいりんじ)

あじさい、椿、句碑、市民が願いを込めて刻んだ羅漢など、いろいろな市民活動のあるお寺です。

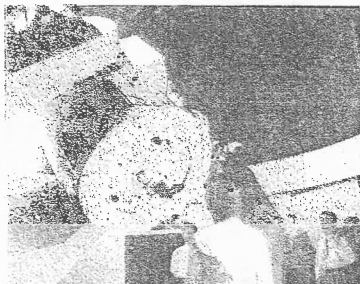
・童子山(どうじやま)公園

自然豊かな公園で、自治会単位で分担範囲を決め清掃しています。ゴミ箱がなくきれいな公園です。

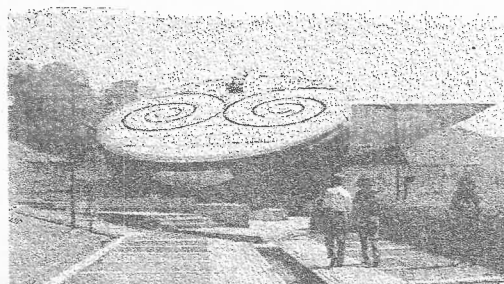
・杉原川

河川敷は市民の手で、きれいに整備されています。それによって、お盆には精霊流しが復活しました。

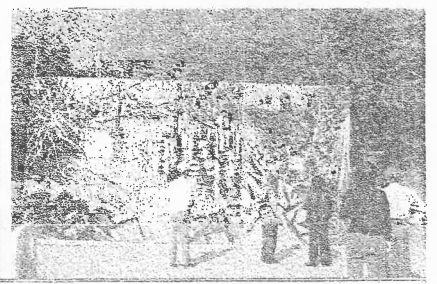
「えーまちやんか西脇」を目指し、地域の資源・文化を大切にしながら、新しい文化を生み育てられるのを実感しました。最後に、我々のために休暇を取って案内下さった来住助役さん、関係者の皆様に御礼申し上げます。 [文責：松岡要三]



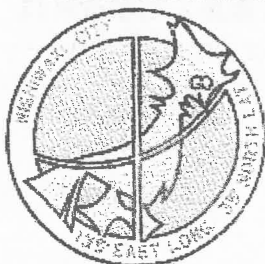
真昼の星の輝きを観る



テラ・ドーム



美術館前広場に建つ横尾忠則の陶壁画



へそのシンボルマーク



西林寺の羅漢



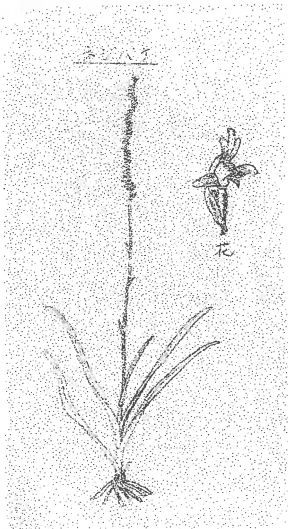
杉原川

すいた版 春の七草・秋の七草

生きもの委員会 平 軍二

1. 七草調査状況

七草調査は「春の七草」が終わり「夏の七草」のシーズンに入っています。「夏の七草」は、**ウツボグサ・カタバミ・ツユクサ・ニワゼキショウ・ネジバナ・ヒメジョオン・ミヤコグサ**の七種である。このうちカタバミ・ツユクサ・ヒメジョオンは良く見かけるので、ほとんどの調査地域で確認できると思われるが、ウツボグサ・ミヤコグサの生息地は限定されており、またニワゼキショウ・ネジバナも小さいだけに見つけるのが容易でなく、むし暑さの中で「夏の七草」探しに汗を流している。



ウツボグサ・カタバミ・ツユクサ・ヒメジョオンは良く見かけるので、ほとんどの調査地域で確認できると思われるが、ウツボグサ・ミヤコグサの生息地は限定されており、またニワゼキショウ・ネジバナも小さいだけに見つけるのが容易でなく、むし暑さの中で「夏の七草」探しに汗を流している。

←ネジバナ

2. 七草観察会・勉強会

調査にあわせての観察会・勉強会は、5月・6月に下記の2ヶ所で実施した。

第5回 北千里阪急延長線予定地

- ・日時 5/30(日)午前9時～12時
- ・集合 阪急北千里駅改札口
- ・参加者 15名
- ・観察地 NO 1480・1481
- ・観察地環境
 - ①千里ヶヤキ通り沿いの歩道周辺
 - ②青山台阪急延長線予定地

・観察結果 (まとめは下表)

ウツボグサ・ミヤコグサを確認することになったが、予想以上に見事な群落を見ることができた。中でもウツボグサは、他での観察は殆ど期待できないのに、一面に紫色の絨毯を敷いたようであった。

第6回 江坂～高川沿い

- ・日時 6/13(日)午前9時～12時
- ・集合 地下鉄江坂北口改札口

- ・参加者 7名
- ・観察地 NO 1309
- ・観察地環境
 - ①江坂駅前ビル街周辺
 - ②豊津公園周辺
 - ③高川沿いの空き地
- ・観察結果 (まとめは下表)

観察風景



本調査地は、北千里のウツボグサのような目玉商品は無く、単なる野草(雑草)観察会とした。先ず江坂駅北出口の道路やビル周辺に生えている草を集めての

比較、続いて豊津公園でも同様に行い、両方で50種以上を確認した。

稲荷神社境内には殆ど野草は無かったが、高川沿いでの観察を加え、トータル80種を確認した。

観察会データ	第5回 北千里	第6回 江坂
観察種数	50	80
内すいたの七草(37種中)	18	18
春の七草(15種中)	6	9
夏の七草(7種中)	6	3
秋の七草(15種中)	6	6
内花が咲いていた種	34	45

3. 今後の七草観察会予定

- ・第7回 7/11(日)阪急正雀駅改札口
午前9時、(南正雀→川園町など安威川ペリ)

(七草勉強会を兼ねた楽しい植物観察会です。当日集合場所へおいで下さい。)

以上

吹田の身近な自然環境 「千里の竹林」

〔はじめに〕

千里の竹林の手入れが進まず荒れているのを見かねた有志が集まって“竹林の美しさを取り戻そう”と、昨年6月末に話し合いを始めてから1年になります。

その後、昨年11月16日の「千里竹の会」設立総会を経て、今日までの活動に携わった者として会を紹介する機会を頂き、ありがたく執筆しました。

〔竹林管理の手始め〕

竹林の外から見ただけでも立ち枯れや朽ち倒れが目立って見苦しい場合が多いのですが、竹林内部は更にひどくて、倒れたものなどが散乱しています。

これらの枯れ倒れなどを整理し、立ち枯れや混み過ぎ青竹を間伐し、日当たりも風通しも良くして、外観からも美しい竹林を蘇らせようという取り組みを始めています。



←「千里竹の会」が手入れする前の状態

手入れが進んだ後の状態→



〔活動対象の竹林〕

千里竹の会では、吹田市桃山台の桃山公園内の竹林（約6,400㎡）について吹田市と管理覚書を結び、豊中市からは新千里東町の東公園内の竹林の一部（約10,000㎡）を任されています。

間伐などの活動日数は発足以来7ヶ月で70日を超え、対象範囲の過半数は整備が進み、両市の公園部門からは「千里竹の会の活動成果には目を見張る」と評価されています。

〔竹林管理の問題点（間伐材の処分）〕

竹は筍から3～4年で成熟期を、7～8年で老齢期を迎えます。これほど成長の周期が短いので、適正な間伐を続けようとする大量の間伐材が発生して、処分に困るのが通例です。

現在は周辺の竹垣の補修や増設・斜面の土留め等に利用していますが、次々に伐採する場合

まちなみ委員 彦坂 利久（千里竹の会）

間伐材の有効活用が必要になります。

〔間伐材の活用〕

樹木を木炭や製紙に使うと森林再生のために伐採後に植林をする必要がありますが、竹の場合は筍がいくらでも生長し、間伐後も自然に再生します。

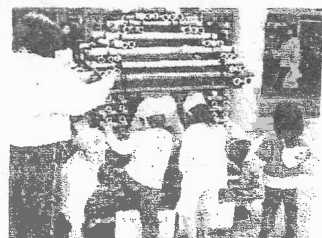
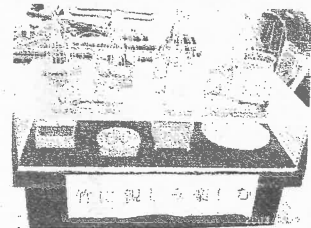
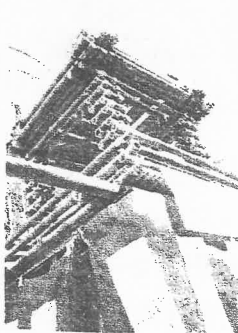
このような自然の恵みを資源として活用するための手段として、現在は北千里高校の竹炭作りに協力していますが生産の絶対量が少なく、今後は「竹チップ（堆肥用など）」「竹粉（飼料用など）」「その他」の量産化も図らなければと考えます。

運搬コスト削減のためには間伐現地加工が必要ですが、住宅地近くの公園の場合は騒音対策などの問題もあり、一般的には行き詰まります。最近、極めて低騒音の竹粉機が出来ているので活用を検討します。

〔竹を楽しむ〕

竹林管理や間伐材処分は「千里竹の会」の重要な活動対象ですが“竹を楽しむ”という面からは、細工やイベントも進めようと企画しています。

竹製のおみこし「ちびっこみこし」を製作・披露展示しているのも、その一つです。



竹製の「ちびっこみこし」→竹かご作品の展示（右上）

〔これから〕

「千里竹の会」の活動がマスコミからも注目され、TV・新聞で幾度も紹介されたこともあって、会員が半年間で111人にまで増えました。

会員の色々な思いや好みを活かし、一般の方々とも交流できるような企画を進めて行く考えです。

なお、竹を資源として活用するための調査・検討や加工・細工などの道具の充実のために活動資金の獲得が不可欠ですから、補助金の情報提供など皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

浅田都司男（千里丘中）

歳時記に載っていない種類を幅広く加えることにより、市内の自然度調査にも役立つという目標が明確で、度々の根気のいる予備調査を重ねるなど大変ご苦労が多かったらうと思いました。

夏の七草や春秋の15草のリストを拝見して、オオイヌノフグリ、カラスノエンドウ、アレチノヌスビトハギ、セイタカアワダチ

ソウなど、「おや、君もか、出世したもんやなあ！」と声をかけたくなるような和やかな気持ちになり、同時にゴシック体の旧七草は一層風格を増し、愛着を感じました。

七草の観察兼学習の会には一度くらいは参加したく思いながら、所用に紛れて機会を逃しています。

最近の主な活動報告

4月21日	まちなみ委員会研修会	参加者8名	……………	7頁
5月15日	第5回通常総会開催		……………	2頁
5月22日	あलック吹田散策 片山・豊津コース	参加者39名	……………	6頁
5月30日	第5回七草観察会、北千里	参加者15名	……………	8頁
6月12日	あलック吹田散策 垂水コース	参加者20名		
6月13日	第6回七草観察会、高川	参加者7名	……………	8頁
6月19日	すいた環境教育フェア2004にブース出展、活動事例報告 ……			2頁

小田忠文・会長がオープニングと景品抽選会の司会を務めました

会員数と入金のお願ひ

2004年6月21日現在の会員数

正会員151名(個人148名、団体0名、法人3名) 購読会員(90名) 賛助会員(0名)

★ 封筒の宛先ラベルの下段に入金済みの年度を記入していますのでご確認ください。

★ 会費未納の方に郵便局の振込用紙を同封しました。入金をお願いします。

会員の種類、会費金額、郵便振込先は表紙の題字下に掲載しています。

郵便振込みの場合は、入金確認が若干遅れる場合があります。

正会員は総会で議決権があり、購読会員は総会で議決権がありません。他は同じです。

★ 会費についてのお問合わせ、会員の種類変更などは

大越好子 TEL 06-6382-7769 FAX 06-6382-8697、あるいは中村小夜子 TEL 090-8375-0647まで

ご寄付をいただいた方々 2004年4月1日～6月21日(敬称略) なし

原稿を期限なしで募集しています 年6回の発行です。身近な自然環境・歴史的文化的環境・生活環境を保全・回復・創成する趣旨であれば内容を問いません。文字数の標準は800文字以下です。

前号33号は5月6日頃に配達しましたが、届いてない方は連絡をお願いします。

編集後記 原稿の締め切りは印刷の1ヶ月前に設定しています。発行回数を3ヶ月毎から2ヶ月毎に増やしたとたんに、集まった原稿が表紙ともで4頁しかなく、「あれれっ」と思いました。しかし、あわずに静観していると印刷10日前に10頁まで増えました。ホッ。(古谷)